

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年12月1日 NO.61 (161)



花ちゃん 「あ！モンタサンタさんだ。」

オー君 「こんにちは、おひさしぶりです。」

モンタサンタ 「やあ、花ちゃん・オー君。元気だったかな。」

オー君 「もちろん元気いっぱいーす。12月になると、モンタサンタさんは、  
いそがしくなるのですね。」

モンタサンタ 「そうなんだよ。あちこちにプレゼントを配り歩かなくてはならないしね。」

花ちゃん 「ところで、『師走』という文字は何と読むのですか。」

オー君 「見たことがあるような・・・ないような・・・。わかりません。」

花ちゃん 「『しろう？』かな・・・。ちょっとちがうみたい・・・。」

モンタサンタ「この『<sup>？？？</sup>師走』という文字<sup>もじ</sup>はね、『しわす』と読むんだよ。」

オー君 「『しわす』か・・・そうか！12月のことなんですね。」

モンタサンタ「そのとおり。<sup>むかし</sup>昔はね、1月から12月までを特別な<sup>とくべつ</sup>言い方<sup>い</sup>をしたんだね。」

花ちゃん 「へえー。そうなんですか。わたし知りませんでした。」

モンタサンタ「昔<sup>むかし</sup>はね、月<sup>つき</sup>の満ち欠けをもとに、こよみ<sup>み</sup>を作<sup>か</sup>っていて、陰暦<sup>いんれき</sup>というんだ  
けど、各月<sup>かくつき</sup>にいろいろと特別な<sup>とくべつ</sup>呼び方<sup>よ</sup>があっただよ。」

オー君 「へえー。そうなんですか。ぼく知りませんでした。」

モンタサンタ「いろいろな月<sup>つき</sup>の呼び方<sup>よ</sup>をまとめたので、見てごらん。」

**陰暦<sup>いんれき</sup>の月<sup>つき</sup>の読み方<sup>よ</sup>とその意味<sup>いみ</sup>**

ようれきめい 陽暦名	いんれきめい 陰暦名	よ <sup>かた</sup> 読み方	い <sup>み</sup> 意味 (いろいろな説 <sup>せつ</sup> があります。ごく一般的 <sup>いっぱんてき</sup> な説 <sup>せつ</sup> です))
1 月	睦月	むつき	お正月 <sup>しょうがつ</sup> で家族 <sup>かぞく</sup> みんなが《むつみあう一 <sup>なか</sup> 仲 <sup>こと</sup> がよい》という事。
2 月	如月	きさらぎ	草 <sup>くさ</sup> や木 <sup>き</sup> が芽 <sup>め</sup> を張り出し、《草木 <sup>くさき</sup> 張 <sup>は</sup> 月 <sup>だ</sup> 》という事。 <sup>くさき</sup> ばり <sup>つき</sup>
3 月	弥生	やよい	草木 <sup>くさき</sup> が《弥 <sup>い</sup> 生 <sup>い</sup> ・いよおいーますますおいしげる月 <sup>い</sup> 》の事。 <sup>い</sup> よ <sup>い</sup> よ <sup>い</sup>
4 月	卯月	うづき	うの花 <sup>うのはな</sup> 《ウツギ…白 <sup>しろ</sup> い花 <sup>はな</sup> 》の咲 <sup>さ</sup> く季節 <sup>きせつ</sup> という意味 <sup>いみ</sup> 。
5 月	皐月	さつき	五月 <sup>さつき</sup> はもともと《さ》と読むから。五月 <sup>さつき</sup> 晴 <sup>ば</sup> れは、もともと と五月 <sup>さ</sup> 雨 <sup>みだれ</sup> (梅 <sup>つゆ</sup> 雨 <sup>あま</sup> )の合 <sup>あ</sup> い間 <sup>ま</sup> のわずかな晴 <sup>は</sup> れ間 <sup>ま</sup> という意味 <sup>いみ</sup> で あつたが、五月 <sup>ご</sup> の晴 <sup>は</sup> れの日 <sup>ひ</sup> という事 <sup>こと</sup> もある。
6 月	水無月	みなづき	水 <sup>みず</sup> の月 <sup>つき</sup> という意味 <sup>いみ</sup> 。無 <sup>む</sup> は「～の」という事 <sup>こと</sup> 。
7 月	文月	ふづき	ふみづきともいう。詩歌 <sup>しいか</sup> を短冊 <sup>たんざく</sup> に記 <sup>しる</sup> して奉納 <sup>ほうのう</sup> するから。
8 月	葉月	はづき	いろいろな説 <sup>せつ</sup> があるが、木 <sup>き</sup> の《葉 <sup>は</sup> 》が落 <sup>お</sup> ちる月 <sup>つき</sup> と <sup>こと</sup> の事。
9 月	長月	ながつき	秋 <sup>あき</sup> の夜 <sup>よ</sup> 長 <sup>なが</sup> を鳴 <sup>な</sup> き通 <sup>とお</sup> すという意味 <sup>いみ</sup> で、秋 <sup>あき</sup> の夜 <sup>よ</sup> が《長 <sup>なが</sup> い》。
10 月	神無月	かんなづき	10 月 <sup>かみさま</sup> は神様 <sup>いずも</sup> が出雲 <sup>あつ</sup> に集 <sup>かみさま</sup> まり神様 <sup>い</sup> が《い <sup>な</sup> い》月 <sup>つき</sup> だから。
11 月	霜月	しもつき	霜 <sup>しも</sup> が、お <sup>は</sup> じめる月 <sup>つき</sup> だからというの <sup>いっぱんてき</sup> が一般的。
12 月	師走	しわす	師 <sup>し</sup> とはお坊 <sup>ぼう</sup> さん(僧 <sup>そう</sup> )の事 <sup>こと</sup> で、法事 <sup>ほうじ</sup> などで忙 <sup>いそが</sup> しいから。

花ちゃん・オー君「うわあー。いっぱいあるな。どうやって覚<sup>おぼ</sup>えたらいいのかな。」

サンタモンタ「ただひたすら、何<sup>なんど</sup>度も何<sup>なんど</sup>度も声<sup>こえ</sup>に出<sup>だ</sup>したり、紙<sup>かみ</sup>に書<sup>か</sup>いたりするといいよ。」